

熊取町公民館・町民会館整備基本構想

令和2年12月

熊取町教育委員会事務局

はじめに	P1
第1章 熊取町の概況	P2
(1) 地域の特性	P2
(2) 本町の特徴	P4
(3) 本町の人口動向	P5
第2章 主な関連計画の整理	P6
(1) 主な関連計画	P6
(2) 主な関連計画の内容	P8
第3章 新たな施設が果たしていく役割	P10
第4章 施設の現状と施設整備に関する住民ニーズの整理	P11
(1) 現在の施設の概要	P11
(2) 現在の施設利用状況及び施設整備に関する住民ニーズの整理	P14
第5章 現状の課題整理	P19
(1) 施設及び敷地利用の課題	P19
(2) 利用状況等の課題	P19
第6章 施設整備における基本コンセプトと整備内容等	P20
(1) 施設整備における基本的方向性	P20
(2) 施設整備における基本コンセプト	P22
(3) 整備内容	P24
(4) 概算総事業費	P25
(5) 今後のスケジュール	P25
～参考資料～	P26
～巻末資料～	P43

はじめに

昭和 45 年に建設、開館した公民館・町民会館（以下「公民館」という。）及び町民会館ホール（以下「ホール」という。）は、日頃から適切な維持管理を行ってきたところですが、約 50 年前の建築設計のため、老朽化が進んでいること、ユニバーサルデザインの実現が進んでいないこと、また、平成 26 年度に行った耐震診断の結果、耐震性能が不足していること等から、適切な対応が必要となりました。このような状況から、施設の整備方針について、緊急度、重要度、利用者ニーズなどに加え、利用状況の推移、人口動向から長期的な利用見込み、事業手法、財源、費用対効果の検証など、多方面から検討を行いました。

公民館については、住民の多様な生涯学習活動、文化芸術活動等に利用できる施設であることが求められていますが、町内に熊取交流センター（煉瓦館）などの関連施設が整備されている状況や、現在の利用状況などを勘案すると、施設の規模としては充足していると言えるため、整備費用が建替に比べ安価な大規模改修を行うこととしました。

一方、ホールについては、文化芸術活動の成果発表や鑑賞、各種式典や講演会の開催など、町唯一の専用ホールとして機能していること、公民館と比べると利用率が高く、ホールの舞台拡張や座席数の増席に関するニーズがあること等を勘案すると、大規模改修では対応が困難であるという結論に至り、建替を行うこととしました。

大規模改修・建替工事の施工にあたり、令和 2 年度に「熊取町公民館・町民会館整備検討委員会（以下「委員会」という。）」を設置し、現状の施設の課題や基本コンセプト等を整理し、その課題の解決や基本コンセプト等の実現に必要な施設の機能・設備等を示す「公民館・町民会館整備基本構想（以下「基本構想」という。）」を策定することとしました。

基本構想の策定にあたっては、利用団体及び住民無作為抽出アンケート調査等を実施し、住民のニーズを幅広く把握するよう努め、現在の公民館、ホール及び教育・子どもセンターの定期利用団体の活動に必要な機能を維持しつつ、より多くの住民にとって利用しやすい施設の整備を通じて、新たな利用促進を図るとともに、本町の関連計画との整合性に留意し、関連施策の推進に資する施設となるよう、委員会で検討を行いました。

今後は、基本構想を実現できるよう、公民館・町民会館整備に係る事業を推進します。

第1章 熊取町の概況

(1) 地域の特徴

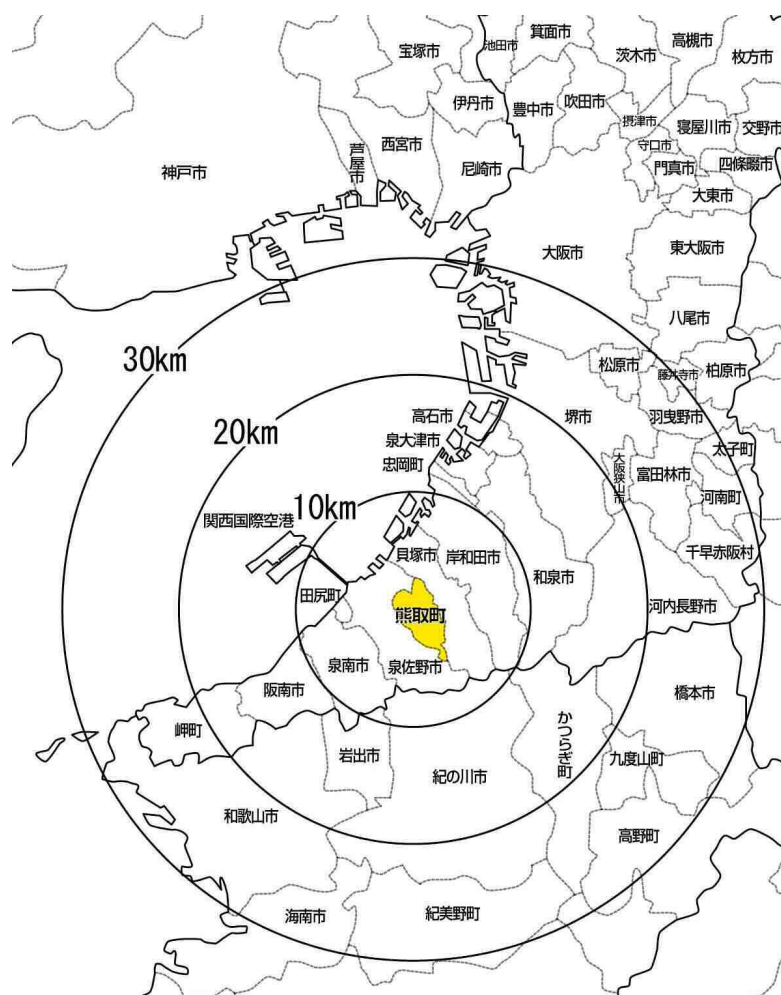
①位置

本町は大阪府の南部・泉南郡にあって、北東部は貝塚市、南西部は泉佐野市に隣接しています。

町域は、東西約 4.8km、南北約 7.8km で総面積 17.24km²（大阪府面積の約 0.9%）の広さを有しています。

大阪都心部からは約 30km の距離で、JR 阪和線で約 30 分といった利便性の高い立地である他、関西国際空港にも近接しています。

<熊取町の位置>



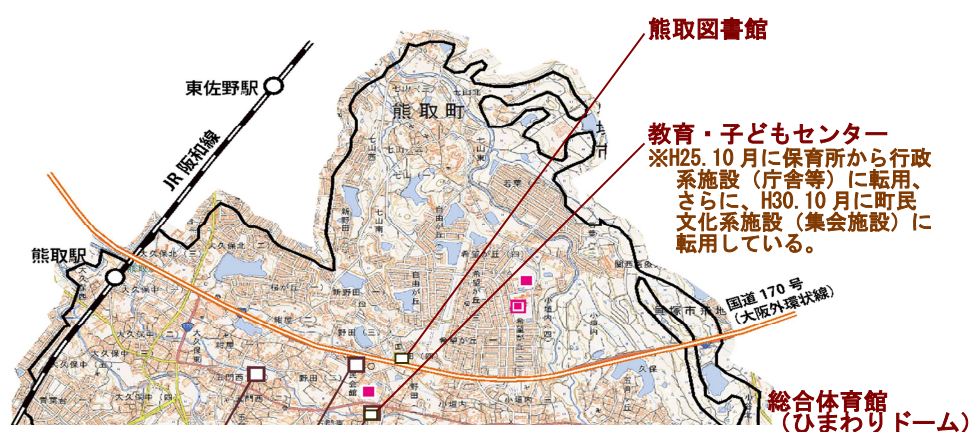
(出典：熊取町都市計画マスタープラン)

②地域構造

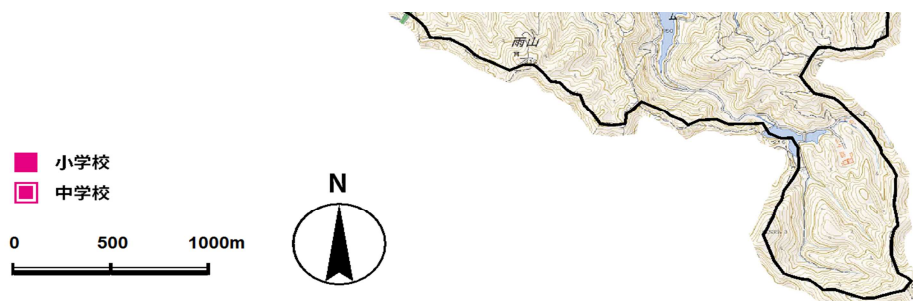
町域の北側を JR 阪和線と国道 170 号（大阪外環状線）が通過しており、周辺市も含めた広域的な交通軸を形成しています。

市街地は町域の中央部から北部にかけての平地・丘陵部に広がっており、ため池や田畑が混在した緑豊かな住環境が形成されています。

南部は山地地域となっており、「大阪みどりの百選」「水源の森百選」にも選ばれた奥山雨山自然公園などの良好で豊かな自然環境に恵まれています。



※H25.4月に勤労青少年ホームから転用した施設で、H30.9に廃止している。



（出典：熊取町公共施設等総合管理計画から抜粋・加工）

